

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	8 月	9 日	記入者	久門 たつお
調査者名	明槻	石井	久門	橋詰	

文化財名	谷首(たにくび)古墳				
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	1958年(昭和33)3月20日				
所在地	桜井市阿部802				
所有者 管理者	八幡神社				
員数	1基				
時代区分	7世紀初頭				
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	有り(県教委設置。やや傾いているのが気になる。)				
公開	見学・立ち入り自由				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 ()				
当面の課題	石室の天井にコウモリの姿が見られた。当面、人に害を及ぼすことはないと思われるが、増えすぎると見学に支障がでる可能性はあり、注視してほしい。				
今後の課題	特にない。				
その他 (由緒など)	1辺約38 [㍎] 、高さ約8 [㍎] の方墳。この地域を本拠地とした豪族・安倍氏の墳墓とみられている。南北朝期には墳丘が砦として利用され、その後は墳丘上部西とその西側に八幡神社が鎮座している。南に開口する横穴式石室は全長13.8 [㍎] で、玄室が長さ6 [㍎] 、幅2.8 [㍎] 、高さ4 [㍎] 、羨道は長さ7.8 [㍎] 、幅1.7 [㍎] 、高さ1.8 [㍎] 。花崗岩の石室から凝灰岩の破片が出土し、家形石棺があったとみられている。(県教委設置の案内板などから)				
コメント	玄室の奥壁は巨石の2段積み、天井も巨大な2石で組まれているのが目を引く。玄室の雰囲気は石舞台古墳(明日香村、国特別史跡)を彷彿とさせる。ここ半世紀で周辺の宅地化が進み、近年は住宅に取り囲まれてしまったというが、この古墳に立ち入ると全くの別世界の古代が実感できる。そして古墳上部に神社がある意外性。歴史ファンならずとも一度は訪ねてみる価値のある古墳だ。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

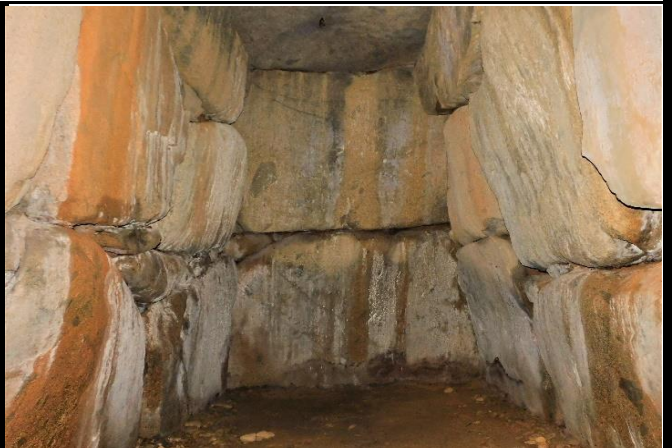
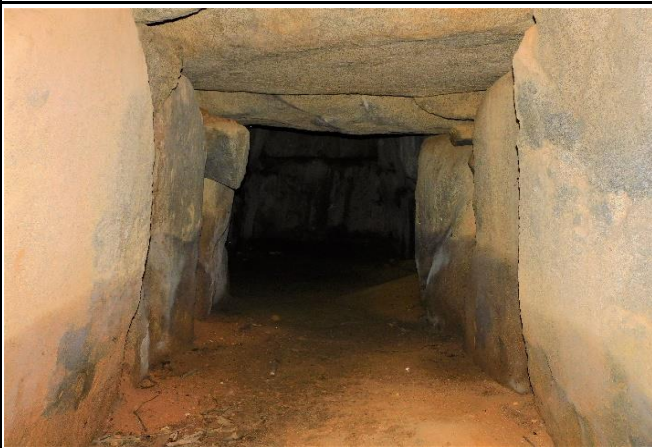
調査日	2020 年	8 月	9 日	記入者	久門 たつお
調査者名	明槻	石井	久門	橋詰	

文化財名	谷首(たにくび)古墳
------	------------

県指定史跡・谷首古墳の正面	説明板(上)と、膝を曲げてやっとくぐれる入口
---------------	------------------------



羨道から玄室方向	玄室の正面。整然と巨石が組まれている
----------	--------------------



羨道から入口方向	古墳上部西とその西側に鎮座する八幡神社
----------	---------------------

